

## 令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県南会場

#### 科目 ⑥障がいのある子どもの理解

- ◆ 身体や知的、精神障がいなどがあり、同じ障がいで一人ひとり症状は違って、子どもを理解してあげることがとても大切なことだと分かりました。これからは、もっと子どもをよく見て、話して、理解してあげて、何に困っているか、どうすればできることを増やせるか、一緒に考えて、実行して、できたら褒めてあげて、子どもの自己肯定感を高められるようにしていきたいです。
- ◆ 支援する上で、障がいの特性を正しく理解することの重要性を多く学ぶことができた。日常生活の中で、その特性を理解されず不適切な対応を受ける可能性があり、また、困っているのに気づかれず、不憫な思いをしている子どもがいることに心が痛む。一人ひとりの特性に応じた理解と気づき、工夫を持って、子どもの自己肯定感を高めていけるような支援に努めたい。
- ◆ 障がいに対しては、周囲の理解と支援環境によって変わるという考え方を持つことと、尊厳を守ることが一番大事で、不当な差別をしてはいけないことを学びました。また、発達障がいの子は本人の努力不足ではなく、理解する困難さがあるということを意識して対応することが大事だと分かりました。障がいの診断名だけで判断せず、個々の違いがあることを理解し、一人ひとりの状況を見極めて支援したいと思います。
- ◆ 一口に発達障がいといってもたくさんの種類があり、個人や環境によっても症状の出方が異なることを初めて知りました。合理的配慮と聞くと難しそうな感じがしますが、負担にならない範囲でできることから対応していけば良いということも分かりました。自分の気持ちが伝わらず、困っている子どもたちもいると思うので、良いところをたくさん見つけて、自己肯定感を高められるような声かけをしていきたいと思いました。
- ◆ これまで、障がいがあることはマイナスのイメージでしたが、適切な支援があれば、社会参加ができ、充実した生活を送ることができると知りました。児童クラブは、子どもたちが長い時間を過ごす場所なので、どのような支援が必要か考えていきたいと思えます。障がいがあってもなくても同じ子どもたちなので、子どもの言葉、心に耳を傾け、信頼関係を築いていきたいと思いました。